

# 学内六報

2013.8.26

no.1442



東大基金  
教職員寄附1億円キャンペーン実施中

# 東大基金 教職員寄附1億円キャンペーン

先ず隗より始めよ!!

◎教職員学習マンガ◎

それゆけ!

いちょうくん

- 第1回 -

こんにちは!  
ぼく、いちょうくん。  
今日は東大基金のことを勉強しに渉外本部に来てみたんだ。



ぼくのこと覚えてる人いるかな?

先生はこの人、てづかさん。前は広報課にいたんだって。



実は2006年 生まれの7歳児

こんにちは。今日はいちょうくんいろいろな教えますよ。

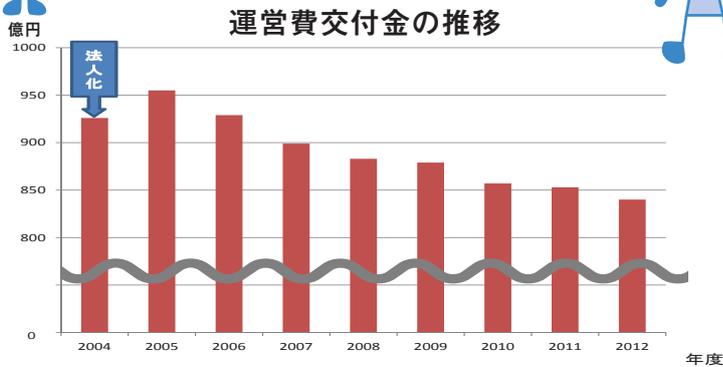


年齢は ナインシヨ♡

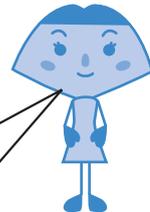
◎ボーズの少なさと背景の省略っぷりが魅力の「いちょうくん」が読めるのは世界広しといえど本誌『学内広報』だけ!

まず見てほしいのはこのグラフよ。「運営費交付金」とって、法人化後に国が東京大学にくれるお金の年ごとの推移を表しているんだけど…。

うわー! ものすごく減ってる! ヒエ〜!



その一方、東京大学はいろいろな新しいことに挑戦しているから何かと資金が必要な。



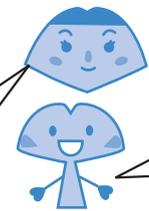
- キャンパス整備
- 各種奨学金
- 国際宿舍、学生宿舍
- 新図書館計画
- 最先端研究 ...etc.



うわー! こりゃ大変! お金がないと無理じゃない?

まくじて 当てるとかー

うん。だから私たちは東大基金ってものをやってるの。いろいろな人に寄附を募って大学の運営に役立てようってわけ。飛行機の補助エンジンみたいなもの



へー、けっこういっぱい集まってるね~  
12億円あったら うまい棒何個買える?

## 2012年度東京大学基金寄附申込総額

【寄附申込総額】	11,142 件	12.9 億円
うち法人	158 件	6.9 億円
うち個人	10,984 件	6.0 億円

※寄附申込総額は寄附申込書に記載された金額の合計

それが、まだまだ足りないのが現状なの。他の大学にくらべると明らかだけど…。



慶應や早稲田とはケタ違いか……ぐやじい!



## 大学基金規模の比較(2011年)

(渉外本部調べ)

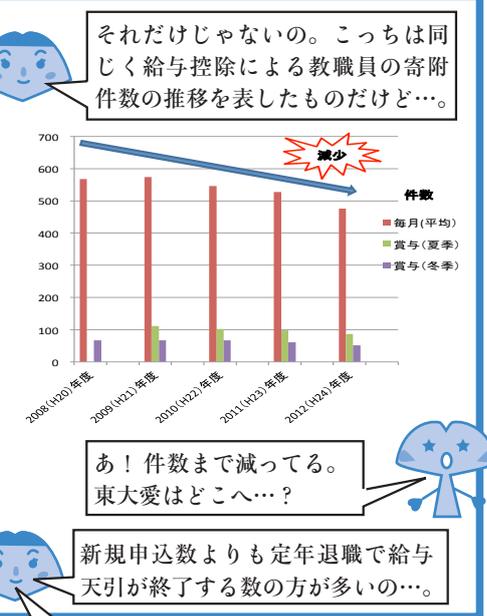
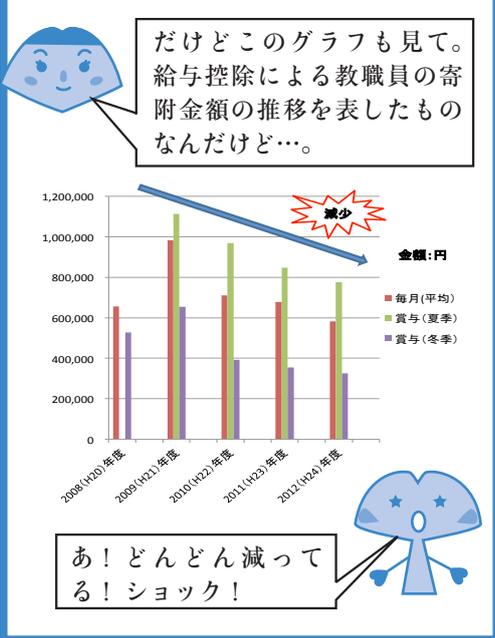
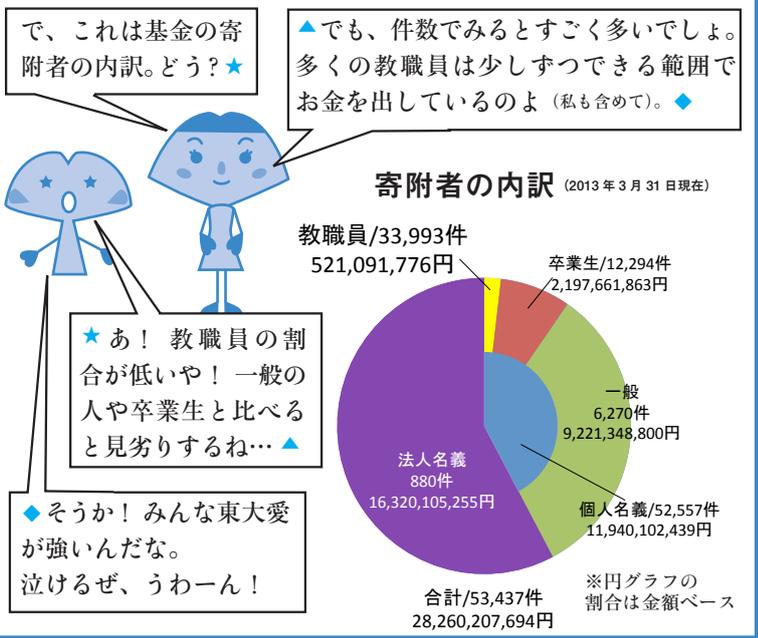
※1ドル = 80円で換算

大学名	基金の規模(億円)
ハーバード大学	25,360
イエール大学	15,496
プリンストン大学	13,680
スタンフォード大学	13,200
マサチューセッツ工科大学	7,760
慶應義塾大学	429
早稲田大学	257
東京大学	91

# 実施中!!

東大が知の拠点として高度な教育研究活動を継続していくために渉外本部が鋭意展開しているのが「教職員寄附1億円達成(目標)キャンペーン」です。平成23年12月1日から始まったもので、このほど平成26年3月31日までの延長が決まりました。いただいた寄附は、基金として運用するほか、外国人留学生の支援や学内の施設整備にも活用されています。ぜひこの機会にご協力を検討ください。

◎「裸子植物界のスター」こといちょうくんに励ましのたよりを! ↓本部広報課 (kouhoukikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)



寄附した人の名前が東大基金のホームページに掲載されるし、一定額以上寄附すると記念品ももらえるわよ。

そりゃ荣誉だ〜。

さらに、30万円以上の寄附者については、「感謝の集い」というスペシャルイベントにご招待という特典もあるわよ!

「感謝の集い」? 行きたい!

さらにさらに、100万円以上の寄附者については、濱田総長から直接感謝状がもらえるわよ!

総長じきじきに!? こりゃ100万円以上寄附するしかないや! イーヤッホーウ!

※特典内容は現在検討中の案  
※金額はキャンペーン期間中のトータル額

と思ったけど……よく考えたらやっぱ100万円は無理っす。せいぜい500円くらいかなあ。

500円ならキャンパス定食2回がまんすればいいし…。

あ、500円でも十分よ。もし教職員10,230人が全員500円ずつ給与控除したら、1か月で511万5000円。1年でなんと6,138万円も集まっちゃうの!

スゴイでしょ

ということで、いま力を入れているのが

## 教職員寄附1億円達成(目標)キャンペーン

集まったのは3月末現在で2,800万円。あと7,200万円よ!

うーん、寄附が大事なのはわかるけど、給料減るのはいやだなあ。何か特典はないの?

そうか! よーし、さっそく5頁の用紙で給与控除を申し込んじゃおっと!

いちょうくんったら男前! チュッ♡

きんこの「き」も読んでお! 7pよ!

完

◎詳細は東大ポータルでご確認ください。東大ポータル > 便利帳 > 社会連携部 > 渉外・基金課「教職員寄附1億円(目標)キャンペーン」



## 「東大基金」、これまでの成果

平成16年10月の東大基金の設立以来、建物・施設関係で約117億円、総括寄付講座等で約27億円、奨学金・拠点プログラムの支援等で約12億円の寄附があり、東大基金の成果は、東京大学の様々な教育・研究活動に行きわたっています。近年の成果の一部をご紹介します。

**新調査船「赤浜」**  
沿岸センター活動支援プロジェクト



大海研附属沿岸研究センターは震災によって3隻の船を失いましたが、震災から9か月後、支援プロジェクトで購入したエンジンを備え付けた調査船「赤浜」が進水しました。

**東大球場人工芝貼替え**  
東大球場・芝基金



東大球場の人工芝の整備のため「東大球場・芝基金」を立ち上げ、約3ヶ月で目標額を達成し、2012年3月19日に人工芝に加えてフェンスの貼替えが完成しました。

**東大女子学生支援**  
さつき会奨学基金



昨年度、女子同窓会「さつき会」の発案を受けて女子学生を支援する奨学金が発足し、多くの賛同者の支援により今年度3名の学生を第一期奨学生として迎えました。

**Life in Green プロジェクト**  
小石川 & 日光植物園



建設から45年が経つ公開温室（小石川植物園）の建替計画を契機に2009年度より募金活動を開始し、植物園のファンの方を中心に1億円を超える寄附が集まっています。

**Go Global 奨学基金**



海外留学、海外インターンシップ・ボランティアなどにチャレンジする学生を経済的に支援する奨学事業がスタートし、学内外から多くの支援を頂いています。

**ゴルフ部学内練習場完成**  
東京大学スポーツ振興基金



2013年6月18日、ゴルフ部OB会からの寄附によりゴルフ練習場（鳥かご）が弥生キャンパス東大球場裏に完成しました。

**柏図書館に新ピアノ購入**  
柏図書館ピアノ基金



柏図書館で定期開催しているミニコンサート用のグランドピアノが老朽化していましたが、寄附で購入資金を確保でき、継続開催がかないました。

**外国人留学生と海外留学の支援**



本学卒業生の長島雅則氏の寄附により2011年度に発足した長島雅則奨学基金をはじめとして、基金によりいくつかの「奨学基金」が設置されています。

**寄付講座の設置**



昨年6月、「電力ネットワークイノベーション（デジタルグリッド）」総括寄付講座が日本電気の寄附で誕生しました。毎年、東大基金による寄付講座が数件設置されています。

**駒場屋外トイレ整備**  
基金運用益の活用



東大基金の運用益を活用してキャンパス環境の改善を行っています。その一つとして、屋外トイレの老朽化が問題であった駒場Iキャンパスに屋外トイレを整備しました。

## 奨学生の声

### 中国と日本の文化交流に役立てるよう頑張ります



人文社会系研究科  
博士課程1年  
中国出身

### 鄭若曦さん

テイ ジャクギ

東京大学外国人留学生支援基金の奨学生として採用していただき、誠に有難うございました。留学生支援基金運営委員会をはじめとする関係者の方々に、心より厚くお礼申し上げます。お陰さまで今後も、言語学研究者になることを夢見て勉強に集中することができ、本当に心強く感じています。

私の研究課題は、認知言語学の立場から、日本語と中国語の対照研究を行うことです。言語研究の方向性としては、大きく「言語がどのようにあるのか」に答える研究と「言語がなぜそのようなあるのか」に答える研究に分かれますが、日本語や中国語のような大言語に関しては、言語の精密記述がほぼ網羅的

に行われている一方、言語の在り方に動機付けを探る研究はまだまだに行われていないと言えます。

特に、その「動機付け」を人間の一般的な認知能力や日常生活の経験などに求める認知言語学の立場から、日本語と中国語に見られる普遍性と相対性を比較対照する研究は極めて少なく、私の研究で最も斬新的で意味のあるところでもあると思います。

微力ながらも、今後は研究を通して、日本語・中国語の語学教育の現場や、両国の文化交流に役立てるよう頑張っていきたいと思えます。

(2012年度 奨学生)

# 渉外本部長よりひとこと

## 「東大基金」は「世界を担う知の拠点」へのエンジン

平素より「東大基金」に多大なるご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

2012年度の日本経済は、東日本大震災のダメージからの立ち直りの兆しが見えたものの、海外動向にも翻弄され、完全な立ち直りは果たせずに低迷状況の続く1年でした。こうした経済状況の影響を受けやすい法人からの寄附については、130周年事業終了以降で最も厳しい実績となりましたが、教職員の方々をはじめとする個人の方からの支援に支えられ、2012年度は総額12億9千万円の寄附申込みを受けることができました。厳しい景気情勢が続く中で「東大基金」に温かいご支援をいただき、感謝申し上げます。

本学では現在、「世界を担う知の拠点」を目指し、「行動シナリオ」に示された諸課題への取組みを進めています。国際化＝グローバル対応は最優先課題であり、総合的な教育改革を軸に据えた「グローバル人材の育成」

「グローバル・キャンパスの形成」に向けた諸施策を進めており、東大基金ではこうした諸施策を進めるための財政支援を目的とした基金プロジェクトをいくつか立ち上げました。国家財政が厳しい中で、国からの支援が不足する施策等について、東大基金が「補助エンジン」の役割を果たし諸施策の実現を加速しようとするものです。

また、学内での基金活動に対する理解や気運をさらに盛り上げていきたいと考えており、「教職員 寄附1億円達成(目標)キャンペーン」の平成26年3月31日までの延長実施を決定し、さらに学内広報での連載『ききんの「き」』を5月号から開始いたしました。一人でも多くの教職員の皆さまに基金の重要性等のご理解を深めて頂き、基金活動への参加者となって頂きたいと考えております。教職員の皆さまの「東京大学基金」へのご支援とご協力を、改めてよろしくお願い申し上げます。



副理事・渉外本部長

## 清水 秀久

研究室やオフィスで眠っている本が東大を変える!



詳しくはWEBで→

<http://books.todai-kikin.jp/>

この用紙を使って  
給与控除による寄附に  
ご協力ください!

なるべく200%コピーして使ってください



キリトリ線

25G8ST



### 東京大学基金寄附申込書(教職員用)

東京大学総長 殿

〒 20 年 月 日

住所(自宅)

電話(自宅)

所属部署 (共済組合員番号)

個人番号 連絡先内線

フリガナ ( )

氏名 ( )

下記の内容で給与からの一部控除を用いて東京大学基金へ寄附いたします。

- 寄附先 東京大学基金
- 寄附目的  奨学制度の充実 (世界を担う若者が集い競い合える国際的な環境)
- 右記よりひとつお選びください  研究者の支援 (基礎研究と先進的研究の支援)
- キャンパス環境の整備 (世界を担う知の拠点に相応しい施設設備)
- その他 ( )

■ 支払方法及び寄附金額 (下記よりひとつお選びください)

- 毎月の給与より一部控除  
月額 \_\_\_\_\_ 円 (500円より)
- 年2回(7月及び12月)の給与より一部控除  
1回 \_\_\_\_\_ 円 (500円より)
- 申込月の翌月給与より一部控除(寄附申込の都度)  
金 \_\_\_\_\_ 円也

- 広報誌や報告書等への掲載等
- 氏名の掲載を希望しない  金額の掲載を希望しない
- 東京大学からのご案内等の送付を希望しない

■ ご意見欄

注意事項・給与控除についてはこの用紙を提出した翌月(毎月25日締切)から適用されます。

※申込書はメール 学内便もしくはFAXでお送り下さい。  
送付先: 東京大学基金事務局 本郷地区本部棟5階 メール: [kikin@adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kikin@adm.u-tokyo.ac.jp)  
FAX番号: 03-5841-1219 (内線21219)  
クレジットカードでのお申込みも可能です。詳細はWebページをご覧ください。  
東京大学基金ホームページ <http://uf.u-tokyo.ac.jp/>

※キャンペーン終了後も申し出がない限り継続して控除されます。



# ひょうたん島通信

大槌発! 第15回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬莱島ほうらいという小さな島があります。井上ひさしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から大槌町の復興、そして地域とともに復旧に向けて歩む沿岸センターの様子をお届けします。

## 大槌湾での海洋環境調査

西部 裕一郎

大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター沿岸生態分野 特任准教授

私は震災から1年半後の2012年10月に大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターに赴任しました。同月末に調査のために初めてセンターを訪れて以来、月2〜3回のペースで大槌町に通っています。震災前には大槌湾で研究をする機会が無かったため、以前の町の様子は知らないのですが、残された瓦礫の山や倒壊した防潮堤、そして基礎だけが残された住宅地が津波被害の甚大さを物語っており、私自身宮城県で被災したこともあって、見ていると胸が苦しくなる思いがしました。現在では、センター前にあった瓦礫も撤去され、このコラムのタイトルにもなっているひょうたん島（蓬莱島）にかかる突堤工事も着々と進んでいます。突堤で釣りを楽しむ人々や泳いでいる子供達の姿をセンターから眺めていると何となく安心するとともに、この風景が一日も早く当たり前のものになってくれることを願わずにはられません。

大槌湾では、東北マリンサイエンス拠点形成事業の一環として、係留系による環境モニタリングと調査船グランメユによる定期海洋調査に携わっており、いずれも大気海洋研究所内の方々と連携し



ひょうたん島へと伸びる突堤（2013年7月23日筆者撮影）

て研究を進めています。前者では、湾内の4カ所に水温・塩分計、流向・流速計、溶存酸素計、クロロフィル濁度計、リン酸塩計を組み合わせた係留系を設置し、表層の環境を連続的にモニタリングするシステムを稼働させています。また、後者では、私が専門とするプランクトン（浮遊生物）の生態調査を担当しています。大槌湾は年間を通して湾内外の海水交換が活発で潮通しが良いことが知られていま

すが、動植物プランクトンの季節動態にもこのような湾の特性が反映されており、様々な時間スケール（数日から季節単位）で群集が複雑に変化する様子が少しずつ見えてきました。これらの調査・観測を通じて、大槌湾における海洋環境やプランクトンの変動メカニズムを明らかにし、養殖業をはじめとする漁業の再建に少しでも貢献できればと考えながら、これからも大槌に通い続けようと思います。

## ぴーちゃん日記

### ここはNY? それとも?

震災後の大槌町に戻ってきたらちょっと違和感が……。何だか黄色い車を目にすることが多くなったなあ……と思いきやよく見るとその正体はタクシーでした。提灯には「大安」の文字、そう「だいあんタクシー」です。え? 何でその色? と思い運転手さんにインタビュー!

震災でタクシー車両全てを失った大安さん。3か月間営業出来ませんでした。被災地には全国から支援車両が集められ、

県タクシー業協会では真っ先に大安さんに車両提供してくれたので業務を再開することが出来たそうです。検討を重ね、被災地で目立つようにと黄色一色の車両になりました。支援車両2台だけでスタートしましたが、現在は8台まで増えているそうです。皆さんも大槌町にいらした際は、黄色い大安タクシーを利用してみてはいかがでしょう? 気分はNY?!



まるでNYのようなカラーリング

# ききんの「き」

—東大基金で森を動かす—

第4回

**奥山 明** 元渉外・基金課主任  
(現放送大学職員)

## ご寄附いただいた方の声

東大基金が設立され、10年を迎えようとしています。現在までに約600の法人・団体と、約15,000名の個人の方からご寄附いただいています。

私は基金事務局の担当者として、日々の業務を通じて、電話対応やWEB申込の入力項目から寄附者の想いを感じることができました。寄附は「〇〇先生の研究紹介をテレビで見たので是非支援したいと思った」「〇〇プロジェクト、頑張ってください」「〇〇部(運動会)に強くなって欲しい」など、基金プロジェクトに賛同し、目的を指定する寄附が多くを占めています。その他にも古本募金(古本を回収し、その査定金額を東大への寄附とする)に寄附する方は「家で眠っている古本が他の方のお役に立てば、こんなに嬉しいことはない」など、熱い想いを寄せてくれています。また、寄附するかどうか迷っていた方が、「渉外職員の熱意のある話を聞いてすごく感銘を受けた」と寄附をされるといった嬉しいお話もあります。

ここで、紹介できるのは一般的でごく一部です。ぜひ一度、下記画像にもある東大基金ホームページ内の「ADD YOUR NAME」(寄附者の方々のコメントをリアルタイムで掲示)をご覧ください。一つ一つの寄附にこめられた「思い」を知ることができますよ。

最後に、私ごとで恐縮ですが、7月付けで出向することになり、東大(基金)を離れました。いち寄附者としての私の夢は、「毎年ささやかながら寄附を続け、定年退職する頃には、家族の連名で安田講堂へ銘板を掲示してもらおう」ことです。毎年寄附すれば、毎年寄附金控除の税制優遇も受けられますね。寄附者の方って、私のように銘板掲示や税制優遇を考慮していることが意外に多いんですよ(^^)。

お名前	日付	金額	コメント
伊藤 真樹	2013年06月29日	10,000円	七徳堂の改修等に寄付がご協力したいと思います。
半原 久雄	2013年06月27日	50,000円	自転車部は海外で活躍する選手が活躍しています。軽便選手も文武両道で頑張ってください。

最新の ADD YOUR NAME は東大基金HPへGO!

## 東京大学基金事務局

TEL 03-5841-1217 : E-mail kikin@adm.u-tokyo.ac.jp  
内線21217 : URL http://utf.u-tokyo.ac.jp/

# 留学生さん いらっしやい!

第3回

海を越えて東大に来た学生に聞きました。



ポーランド

**マルチン・ヤゼムブスキさん**

Marcin Jarzebski

新領域創成科学研究科  
サステイナビリティ学教育プログラム博士2年

世界遺産で有名なトルンの出身。趣味は旅と歌舞伎と日本舞踊。「日舞は柏おどりを作った先生に習っています」

## Q. どうして日本に来たんですか?



子供の頃から日本に興味があって、特に日本の小説が好きでした。夏目漱石、谷崎潤一郎、安部公房……と、地元の図書館に約20冊あった本は全部読みました。大学で日本語と歴史を勉強してみて、留学しようと思いました。

## Q. ではどうして東大を選んだんですか?

日本のトップの大学に憧れがあったからです。そこに自分が入れるか、がんばってみようと思いました。ちなみに第二希望は京大でした。



## Q. いま研究しているのはどんなこと?



日本文学には無関係で、山本博一先生の下、フィリピンの住民参加型森林管理を研究しています。住民が政府の森を借りて作物を育てるプログラムに生じる問題を解決したいです。

## Q. 日本に来て困ったことはありますか?

いまは広い部屋を借りてシェアしているんですが、最初に住んだのがとても狭い部屋で、母国とはだいぶ違うなと感じました。あと、大きく違うのはおいしいパンがなかなかないこと。日本の食パンにはどうもなじみません。



## Q. ポーランドの自慢を教えてください!



古くからの建物が残るポーランドの街の旧市街の美しさは見ものです。写真はワルシャワ市内にあるワジェンキ公園にて。料理なら餃子に似た「ピエロギ」がおすすめです。



協力: 国際センター本郷オフィス 制作: 本部広報課

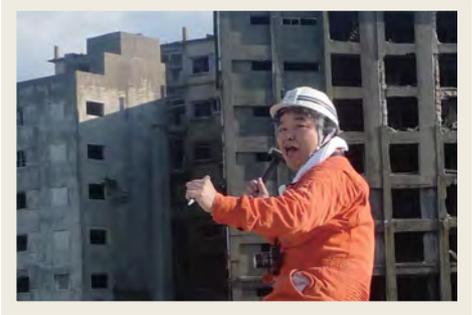
## ワタシのオシゴト 第90回

## RELAY COLUMN

工学系研究科建築学専攻  
技術専門員

田村 政道

## 実験・研究・調査などなんでもやります



長崎の軍艦島にて（建物の劣化調査中）

建築材料・防火の研究室に所属する技術専門員です。仕事内容は、学生・院生の研究や実験などを技術的にサポートすることで、その内容は多岐に渡ります。また、最近では安全管理の比重も増えています。

夏学期は学部学生を対象とした建築材料演習があり、材料・防火という分野に対し、いかに興味を持ってもらえるかを考えた内容で実験を構成しています。またここ最近では、他大学や国の機関との共同研究を行うことが多いです。東京理科大学との共同研究では、京都大学原子炉実験所に御邪魔してコンクリート中の水分移動の可視化実験を、国総研などとは、燃えやすい物（木材や発泡系断熱材など）を建物の外装に施工した場合の火災安全性の評価方法の開発を行っていて、その試験方法がJISとして制定される一歩手前という段階です。また、鉄筋コンクリート構造の建物の劣化診断では、長崎の軍艦島や上野下の同潤会アパートの調査に参加、同様の劣化調査が今後いくつか予定されています。

最後に趣味の話で恐縮ですが、古いレンガ（赤煉瓦）を収集しています。レンガは大きさ、焼き色、刻印などで、いつどの窯で焼かれたかある程度推測できます。構内でレンガを掘り返している人を見かけたら私かもしれません。もし見かけたら優しく声をかけてください。



上野下の同潤会アパートの劣化調査参加者と（オレンジのつなぎが私）

得意ワザ：現場あわせでとりあえずなんとかすること  
自分の性格：良い意味でも悪い意味でもイイ加減  
次回執筆者のご指名：藤本帝子さん  
次回執筆者との関係：なぜか生年月日が同じ  
次回執筆者の紹介：頭の回転も口の回転も速い方

## Crossroad

産業界と大学がクロスする場所から、産学連携に関する“最旬”の話題や情報をお届けします。

産学連携本部

第93回

## 東大発ベンチャー企業におじゃましま〜す!

さかのぼること100年余の明治時代。財産を管理する能力がない者に財産上の行為を禁じ、後見人をつけた「禁治産制度」は、超高齢社会となった現在、「成年後見制度」と名称を改め、にわか注目が集まっています。

そんな時勢を反映し、親族後見人の増加や、市民後見人・法人後見の比重の増大が見込まれる中、一般社団法人後見人サポート機構は、後見業務を行う親族や市民後見人に必要な指導やアドバイスを提供しようと、2012年に設立されました。2009年に開講した「東京大学市民後見人養成講座」を端緒に、後見に対する旧態依然とした価値観や誤解をほどこしながら、後見に関する体系的な知識を付与するとともに、機構においてはオーダーメイドのサポート業務を展開。バックアップ団体を持たず、後見に関する知識のない親族や市民をサポートする組織としてさまざまな相談等を受け付けています。

講座の開講と機構の設立は、同機構の事務局長であり、東京大学市民後見研究実証プロジェクトの宮内康二特任助教を中心に実現。「後見される側にしてみたら、後見人は最後の砦。後見人が諦めてしまったら終わりなんです。後見される人が幸せになるために、当機構の機能を広く社会化していきたいですね」（宮内助教）。今後は会員のすそ野をさらに広げるため、「後見検定」の実施や後見業務のデータベース化を図る中で、後見に関する政策提言を行っていく予定。「老いをどう生きるか、後見をどうするのかという点について、世の中の見方が変わっていくことを願っています」と話し、質の高い後見の実現を図っていく方針です。

## 一般社団法人後見人サポート機構



後見人サポート機構のみなさん

本社：東京大学本郷キャンパス アントレプレナープラザ3階  
設立：2012年7月4日  
事業内容：親族後見人・市民後見人・法人後見の実務支援等

詳細はコチラ！ <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/jp/information/crossroad/index.html>

<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

# インタープリターズ・ バイブル

第73回

総合文化研究科 准教授  
教養学部附属教養教育高度化機構  
科学技術インタープリター養成部門

岡本 拓司

## 科学とそれ以外の知識

科学コミュニケーションなど、科学を外側から扱う領域(科学史や科学哲学もそうである)でまず取り上げるであろうと期待される問題は、「科学とは何か」というものである。ところが、論理実証主義や反証主義を経ても、この問題に対する専門家の答は不明瞭なままにとどまっている。たとえば、パラダイムという概念で科学を特徴づけようとしても、同じような構造は、科学とは異なると思われる領域である哲学・歴史学・社会学などにも存在することにすぐに気付く。何らかのデータがあって、そこから特定の主張が生み出される、或いはそうした主張が論証されるという形態の知識においては、論理実証主義も、反証主義も、パラダイム論もみな成立してしまうかのようと思われる。

科学の特徴は、データと主張の間の関係ではなく、データの取り方にあると見るべきである。具体的には実験がそれをよく表現しているが、科学における論証は、反復可能な現象を示したり作り出したりすることで実行される。なぜかは分からないが、世の中には繰り返し起こる現象、繰り返すことのできる操作があり、科学における探求や論証はこれらに依拠している。ほかの領域の知識が依拠しているもの(論理、権威など)も利用するが、繰り返し可能な現象・操作に依拠している点が科学を他の学問から分ける特徴である。

科学の対象には反復可能性のない現象も含まれるが、その場合でも具体的な探求は反復可能性に基づいて得られた知識を武器として進められる。また、多くの場合、科学は特定の操作(実験)の結果を予測することで信頼性を獲得するが、これは反復する現象・操作が探求の基礎にあることで可能になる事態である。探求の手段が反復可能性を持たない哲学や歴史学には予言の能力はなく、また予言があたるかあたらないかをもちて信頼性の基準とすることもない。

反復可能な現象・操作に基づく説得力は大きいので、いったんそれをを用いた知識が出来上がれば、世界中に普及するのは時間の問題であった。ただし、これが出来上がり、受容されるまでには、そうした知識のもつ力を明確に示す出来事が必要であり、これは17世紀のヨーロッパでしか生じなかった。

科学技術インタープリター養成プログラム  
<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>

# 救援・ 復興支援室 より

第27回

本学の救援・復興支援室の最近の状況や、  
遠野分室の日々の活動の様子をお届けします

## 救援・復興支援室の活動(7月~9月)

7月	岩手県陸前高田市「学びの部屋」 学習支援ボランティア
7月~8月	福島県相馬市「寺子屋・相馬育英館」 学習支援ボランティア
8月	平成 25 年度夏季ボランティア隊の活動
8月	福島県大熊町の避難生徒への 学習支援ボランティア
9月25日	第 19 回救援・復興支援室会議

## ザシキワラシの日常

本部企画課係長(遠野分室勤務)



文: 佐藤 克憲

遠野分室では、7月1日付けで人事異動があり、分室立ち上げ間もない時期に赴任し本学の復興支援活動に多大なご尽力をされた赤崎係長が、2年間の勤務を終えて本郷に戻られ、後任として私佐藤が着任しました。

私も赤崎前係長と同じく岩手県の出身ですが、実家は内陸部にあり津波等の被害を受けることはありませんでした。しかし、復興支援に対する思いは強く持っているつもりでして、前任者が築き上げてきた地元との信頼関係を損なうことなく更に発展させ、本学の復興支援活動に多少なりとも貢献したいと思っています。一日も早く現在の業務を把握すべく悪戦苦闘の毎日ですが、暑さに弱い私としては、東京と比べ夏も朝晩を中心に涼しいことが救いです。

皆様も、復興支援活動のため、あるいは観光のみということでも構いません、是非被災地に足を運んで、直接ご自身の目で状況を見て、何かを感じていただければと思います。そして、前後には遠野にもお越しください。平日分室にお立ち寄りいただければ、どんな様でも歓迎させていただきます。

最後までお読みいただき、「オアリガトガンス！」  
(遠野の方言で「ありがとうございます」)。

※ザシキワラシ:

主に岩手県に伝えられる精霊的な存在。座敷または蔵に住む神と言われ、家人に悪戯を働く、見た者には幸運が訪れる、家に富をもたらすなどの伝承がある。(Wikipediaより)



執筆者@遠野分室入口にて。皆様お待ちしております！

[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/info\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/info_j.html)

Email : kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

内線 : 21750 (本部企画課)

## トピックス

全学ホームページの「トピックス」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/topics/>)に掲載した情報の一覧と、その中からいくつかをCLOSE UPとして簡単にご紹介します。それぞれの記事の詳細は、全学ホームページよりご覧ください。

掲載日	担当部署	タイトル	実施日
7月19日	環境安全本部	平成 25 年度「東京大学安全の日」講演会の開催	7月9日
7月22日	渉外本部	「東京大学基金 感謝の集い」を開催	7月10日
7月23日	大学院工学系研究科・工学部	実証研究の開始に伴い、福島洋上風力交流センターを開設	7月13日
7月26日	情報基盤センター	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点第5回シンポジウム開催報告	7月11日～12日
7月29日	大学院総合文化研究科・教養学部	国際大学対抗プログラミングコンテスト(ICPC)で本学チームが日本初の3位入賞	6月30日～7月4日
7月30日	総合研究博物館	特別展示「宇宙資源－Pie in the sky」展に関するトークイベントを開催	7月27日
7月31日	大学院農学生命科学研究科・農学部	ハス見本園の一般公開(附属生態調和農学機構)	7月23日～24日
7月31日	大学院農学生命科学研究科・農学部	「将来の課題に向けた日本・オーストリア委員会」を開催	7月1日～3日
8月1日	生命科学ネットワーク	第13回東京大学生命科学シンポジウム開催報告	6月8日
8月2日	医科学研究所	港区との連携協力に関する基本協定書を締結	7月30日
8月9日	本部社会連携推進課	高校生のための東京大学オープンキャンパス2013開催	8月7日～8日

(7月19日～8月18日掲載分)

## お知らせ

人事異動情報など全学ホームページ「お知らせ」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/>)・東大ポータル等でご案内しているさまざまなお知らせを一部掲載します。

掲載日	担当部署	タイトル	URL
8月1日	本部人事給与課	人事異動(教員)	<a href="http://www.ut-portal.u-tokyo.ac.jp/wiki/index.php/人事異動(教員)">http://www.ut-portal.u-tokyo.ac.jp/wiki/index.php/人事異動(教員)</a>
7月24日	本部入試課	平成26年度東京大学入学者選抜要項の公表・配付について	<a href="http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/812/">http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/812/</a>



## CLOSE UP

## 高校生のための東京大学オープンキャンパス2013開催(本部社会連携推進課)



在学生によるキャンパスの説明に聞き入る参加者たち

8月7日(水)、8日(木)の2日間、本郷地区キャンパスにおいて、「高校生のための東京大学オープンキャンパス2013」が開催され、2日間で延べ約12,800名(7日:約3,800名、8日:約9,000名)の参加者で賑わいました。

オープンキャンパスは、高校生・受験生等に大学を公開し、本学への理解を深めてもらうた

めのイベントで、2000年度より毎年開催されています。参加者は、各学部等の模擬講義や研究室見学等を通じて、本学の教育・研究活動を体験しました。また、現役学生による東大ガイドダンス、キャンパスツアー、女子学生コース等の企画や、総合図書館、総合研究博物館等の見学も盛況でした。



CLOSE UP

国際大学対抗プログラミングコンテスト(ICPC)で本学チームが日本初の3位入賞(大学院総合文化研究科・教養学部)



3位に入賞した本学チーム (Photo by Vladislav Bilyk from icpc.baylor.edu)

7月3日(木)にロシア・サンクトペテルブルクで行われたACM国際大学対抗プログラミングコンテスト(International Collegiate Programming Contest ; ICPC)世界大会で、本学を代表して出場したチームが、120大学中3位に入賞し金メダルに輝きました。メンバーは、保坂和宏(理学部数学科4年)、副島真(同4年)、今西健介(教養学部前期課程2年)の3名です。世界から強豪大学が集まる中で、3位入賞と金メダル獲得は日本初の快挙です。日本のチームは1998年から世界大会に出場していますが、昨年の本学チームによる9年ぶりの銅メダルに続き二年連続でのメダル獲得となりました。

ACM-ICPCは、大学院生あるいは大学学部生で構成される三人一組のチームにより、プログラミングによる問題解決の能力を競う世界規模のコンテストです。今年度は91ヶ国、2,322大学、

9,000以上のチームが参加しました(本学からは12チームが出場)。三氏のチームは昨年7月に行われた国内予選を首位で通過したうえで、同年11月に行われたアジア大会(東京会場)でも優勝し、世界大会出場権を獲得しました。

教養学部前期課程では、「実践的プログラミング」という全学自由研究ゼミナール(現担当：金子知道、福田玄明)を開講しており、プログラミングを通じた問題解決技法の習得に意欲のある学生が学び競い合うことができる環境を提供しています。今回3位に入賞した三名も、その受講者とOBです。また今回の世界大会参加のための渡航費についても、教養学部附属教養教育高度化機構が一部を支援しています。

詳しくは本学ホームページ「トビックス」や以下のICPCホームページをご覧ください。  
<http://icpc.baylor.edu/>



CLOSE UP

ハス見本園の一般公開 [附属生態調和農学機構](大学院農学生命科学研究科・農学部)



ハス見本園を一般の方に公開しました

7月23日(火)と24日(水)の2日間、西東京市にある農学生命科学研究科附属生態調和農学機構のハス見本園を、一般の方々に公開しました。ハス見本園は教育研究の利用とハスの系統保存のために管理されており、ハスの開花時期に合わせて公開しました。2日間で800人を超える市民の方々が来場され、200種類を超える系統、品種のさまざまなハスの花を鑑賞されました。

そのうち大賀ハスは1951年に大賀一郎博士が現在の本学検見川総合運動場(当時は本学厚生農場)で発掘した果実を発芽させた系統です。発掘された果実は2,000年以上地下に眠ってい

たと推定されています。この大賀ハスの香をイメージした香水を東京大学がオリジナル商品として開発し、当日は東大コミュニケーションセンターが会場に出店し、香水などを販売しました。また、「緑地美人」という品種は緑地植物実験所で交配作出した品種で、品種登録されています。

ハスに関する研究紹介のほか、このフィールドで行われているイネ・野菜・果樹などの研究や本機構の教員・学生の海外での研究紹介がパネルで展示されました。同時に学生実習で管理・生産されたモモとジャガイモの販売や所蔵資料を展示した農場博物館も開館されました。

特別展示「宇宙資源—Pie in the sky」展開催(総合研究博物館)



「宇宙資源」展ホームページより。ぜひご来場ください。

総合研究博物館では、9月29日(日)まで、特別展示「宇宙資源—Pie in the sky」展を開催しています。小惑星イトカワの詳細な模型や2月にロシア・チェリャビンスクに落下した隕石などを展示しています。詳細は以下の特別展示のホームページをご参照ください。  
<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/exhibition/2013SpaceResources.html>

表紙写真について



今回の表紙は、特集「東大基金」より、「東大球場・芝基金」で生まれ変わった東大球場の人工芝の写真です。9月より東京六大学野球秋季リーグ戦がスタートします。勝利に向けて頑張る硬式野球部を応援しましょう!



## 自我の教育、自己の教育

若い頃は自分は論理的な人間だと思っていた。しかしながら年を重ねた今、つくづく感覚的な人間であると納得している。研究の方向性も含め、多くの判断が自分の感覚に依っている。またその方が結果的に物事がうまく進んでいるようだ。この感覚の元は無意識にあるのであろう。懸案事項がある場合、一晩二晩待つと明け方に良い解決案が浮かんでくることが多いのは不思議なものである（研究上はそう上手くはいかないが、ものの見方といったような場合は役に立つアイデアが浮かぶことも多い）。自分の感覚に合わないものは眠っているうちにフィルターで濾されてしまうようだ。この感覚フィルターを作ったものは、学生時代からの本の乱読、スポーツ・旅・芸（術）への親しみ、友人との交流など（研究でいえば論文の乱読、多様なセミナー活動）、その時はおよそ何の役に立つのか分からない日々の楽しみのすべてである。このような生活を何十年も続けることで、今の自分の感覚が醸成されてる。「自己」と呼んでよい、自分の元が時間をかけて作られてきたと感している。

このようなことから、学生には、講義やセミナーなどは分からなくてもしっかり聞いて、心に引っかかることをとめておくように云っている。いま分からないことが数年後のある日ふと分かることがある。「あのとき〇〇先生が言っていたのはこういうことだった

のか」と思えることがいつかある。その時私たちは成長を実感できる、それを我々は知っている。これこそ教育的であろうと... 私が教育を語る時頭にあるのはどうもこのような教育観のようである。武道などにも通じる、いわば自己研鑽としての「自己の教育」である。

一方いま社会から大学に要請されているとされる教育は、自我を満たすための教育といえるかもしれない。先ほど答申された「基本検」によれば、「何のために学び、学んだ成果を何に活かすのか」という動機付けが不足しているのが（最重要）課題ということである。学生に「学び」に対する意識（自我）が不足していると、それを問題視している。すなわち「自我の（ための）教育」が大切であると言っているのであろう。

自己の教育、自我の教育などという区別があるのかも不勉強で知らないが、彼我のこのような教育（観）の違いを認識しつつ、大学における教育改革全体を考える必要があるのだろう。思えば40年前駒場で担任の先生から、大学とは大人（たいじん）の学をなすところであると薫陶を受けた。大人が何かは未だに不明だが、言葉はいまでも心に残っている。

川勝均  
(地震研究所)